

# 第6回原子力保全改革検証委員会で いただいた意見への対応状況について

平成19年1月22日  
関西電力株式会社

## 第6回 原子力保全改革検証委員会で頂いた意見への対応状況

平成19年1月22日

基本行動方針	意見	対応状況
全般	整理されていない情報が過多にあり過ぎると、ないに等しくなる。またスクリーニングをし過ぎると重要情報を見落としてしまうこともあり得る。経験豊かな専門の人間がスクリーニングする等、情報の管理をきちんとやってほしい。	例えば、CAPのように事業本部において各専門CMが集まるCM会議でスクリーニングすることにより、必要な重要情報を抽出した上で適宜水平展開を図ってきている。今後ともこのような各種情報のスクリーニングを行い、重要情報を見落とすことのないよう情報の管理を確実に実施していく。
	製造業では各部門にいた品質保証の担当者を減らすと、当座は問題ないけれども時間が経過するとともに品質トラブルが増加してくる例が見られるが、今回の水平展開に関して新たに設けられた仕組みをどう維持していくのか、元に戻らないような仕掛けを是非考えてほしい。	現在、美浜3号機事故を踏まえ、全社を挙げて事故再発防止対策の確実な推進に努めてきている。今後も、情報管理専任者、技術アドバイザー、技術情報連絡会などの事故再発防止対策として強化・充実した各種施策を実効性のあるものとして維持していけるよう継続的に取り組んでいく。
	例えば、助言内容の分析により保修要員として不十分な分野に対する教育を充実・強化するなど、技術アドバイザーの知識・経験をダイレクトコミュニケーションを通じて移転していけるよう、マネジメントを工夫してほしい。	技術アドバイザーの指摘・助言内容を分析することにより、保修各課の弱みを把握することができるため、分析結果に応じて技術アドバイザーから保修各課に必要な補充教育を行い、保修課員の知識・技量の充実・強化を図っていくことができる。 従来から、技術アドバイザーは、保修各課の弱みの把握に努め、必要な補充教育を行ってきているが、今後とも、指摘・助言内容や相談内容に留意しながら教育メニューの充実を図っていく。
	進捗率という数値目標では、分子にばかり目がいきがちであるが、分母が明確かあるいは分母の定義が妥当かなど、分母にも目を向けることが大切である。	今後、品質目標の進捗率を見るような監査を実施する場合には、監査の視点の中に目標に対する指標の立て方についての視点も取り入れ監査していくこととする。
	大飯発電所ではマイプラント意識を醸成するための良い取り組みを行っているが、それだけで十分ではない。最終的には小さなトラブルも起こさないという成果に結びつけることが大切である。また、安全な発電所作りを協力会社と力を合わせてやっていることを地元の方々に理解して頂くことも大事である。	発電所の保守管理を適切に実施していくためには、当社社員はもちろんのこと協力会社の方々も含めてマイプラント意識を醸成することが不可欠であり、そういった認識のもと各種施策を講じてきている。もちろん施策を実施しているだけでは十分ではなく、トラブルや労災の発生率の低減など、目に見える形の成果につなげていくことが重要であると考えている。今後ともマイプラント意識を醸成するための各種施策を実施するとともに、それらをできるだけ目に見える形で地元の方々にお伝えし、安心につながるよう努めていく。
	大飯発電所では協力会社との対話活動で受けた要望に対し、発電所では対応可能なものについてはよく対応している。発電所だけでは対応しにくい経営的な部分に関する要望についてもきちんと受け止め、発電所から経営層にきっちりと伝えて対応していくことを期待する。	発電所と協力会社との対話活動については、約3ヶ月毎に発電所から事業本部に報告されており、発電所だけでは対応しにくい意見要望は事業本部長まで報告されている。 発電所から事業本部に検討依頼のあった協力会社からの意見要望については、確実に発電所へフィードバックしており、また、経営的な部分に関する要望については、諸制度ワーキング等へ検討を依頼する仕組みにしており、確実に対応している。
安全を何よりも優先します。	原子力研修センターで、失敗例を展示し教訓(負の遺産の活用)として自ら学んでいることや、実機を使った補修作業の訓練を行なっていることについて、もっとPRしたら県民の安心につながるのではないか。	原子力研修センターは昭和58年に開設され、当初から当社の安全への取り組みを広報するために見学の受け入れを行っており、これまでに7万1千人の見学者(17年度末実績)を受け入れている。その他にもHP、広報誌、CMなどで都度研修センターを取り上げて広報に努めているが、今後とも見学設備の充実や積極的なPRに努め、当社の安全への取り組みを広報していく。
	関西電力として、恒常的な、長持ちする、しかも効果がある安全の戦略を作っていくことが必要である。	美浜3号機事故を踏まえ、全社を挙げて事故再発防止対策の確実な推進に努めてきている。今後も、現在の取り組みが風化しないよう、継続的に取り組んでいく。
	人間の基本行動を教育しなおしていくためには、5S活動等の活動のなかで、皆にわかるようにほめる等、ほめ方を工夫していくことが重要である。	大飯発電所では、当社と協力会社が参加する「総決起大会」の場において、各定検毎の5S活動が優秀な協力会社の表彰を実施しており(現在までの表彰実績:40社)、「ほめ方」のひとつの形と考えている。さらに、表彰された協力会社には「協力会社評価制度」の評価ポイントを与えるなど、一層のインセンティブが働くよう改善を加えることも検討している。 なお、上記取り組みは、大飯発電所独自のものであるが、美浜発電所、高浜発電所においても、各種提案の褒賞、協力会社の表彰など、発電所ごとに工夫を凝らして「ほめる」ことを実践している。
	「役割分担チェックシート」により、協力会社との協業体制の改善を進めていることは評価できる。さらに、業務プロセスと標準類との関係の整理・整頓、効果的な活用方法、チェック項目の的確な表現などについて工夫を図り、保守管理体制の自律的で継続的な改善に資していただきたい。	定期検査終了時等に実際にチェックを行った社員から、チェックシートの運用面を含めた意見を聴取、集約し、その結果に応じて、理解しやすく、より使いやすいチェックシート様式や運用方法となるように必要な見直しを実施していく。
	協力会社からの意見・要望の評価基準として、「直ぐにできるもの」「直ぐにできないもの」という整理もあるが、「直ぐに対応すべきもの」「時間をかけて対応すべきもの」という整理の方が関電としての価値判断を織り込めるので本来のマネジメントとしては良い。	発電所から事業本部に検討依頼のあった協力会社からの意見要望については、依頼を受けた時点で「直ぐに対応すべきもの」「時間をかけて対応すべきもの」の観点から処理期限を設定し、分類している。今後、検討結果を発電所へフィードバックしていく。

## 第6回 原子力保全改革検証委員会で頂いた意見への対応状況

平成19年1月22日

基本行動方針	意見	対応状況
の続き	情報源、コミュニケーションのルートが多様化して形成されている。今後、これらを整理整頓することが必要になってくると思う。作った背景や狙い、個々の活用方法や相互の関連を整理し、重複性や補完性を明確にしておくことよ。	情報管理専任者、PWR事業者連絡会、技術情報連絡会などの事故再発防止対策として各種情報チャンネルを強化・充実した結果、当社が入手する情報量は飛躍的に増大している。豊富な情報を有効に活用していくため、今後、各種情報の分析・活用にあたっては情報源となった情報チャンネルの重複性、補完性に留意し、情報チャンネルの整理・整頓に努めていきたい。
	各種情報については、断面、断面における評価だけではなく、時系列的なトレンドという観点からの分析にも留意して取り扱うようにしてほしい。	各種情報は、入手した断面で内容を分析し必要な対応をとることを原則としている。一方、ある幅を持った期間のマクロ的な分析では、その時々での評価だけでは得られない貴重な情報が得られるため、各種レビューもあわせて実施している。具体的には、年に1度のマネジメントレビューにより年度単位の総括的な評価を実施するとともに、10年毎の定期安全レビューでは10年スパンの長期レビューをユニット毎に実施している。今後とも、ミクロ、マクロの両面から各種情報の分析を実施し、得られた教訓、知見を改善活動に活用していきたい
	リスクの事前抽出シートは、今までと変えた場合にどういう問題が起こりうるかを過去の経験に基づいてスクリーニングしていくという良い工夫である。新規要素・変更点リストといった形で表現すると、スクリーニングの背景、関連が透明化されてくる。仕事の進め方と帳票を工夫するとさらによい。	事前検討において抽出したリスクと、そのリスクに対する背景(着眼点)の関連付けが明確となるよう、シートの様式改善を図った。今後も、運用実績等を踏まえ、必要に応じて、様式の見直し等を検討していく。
	調達管理の重要性に関する教育においては、受講者に業務の課題を持ってきてもらって考えさせると効果が出てくる。また、受講後教育結果がどのように業務で活かされているのかフォローアップすることも重要である。	今後、教育の実施およびその後のフォロー等においては、ご指摘を踏まえて確実に実施していく。具体的には、教育の実施について、受講者の意見も参考にしながら改善を図っていくとともに、教育受講後のフォローアップについて、現行の6ヶ月後評価のしくみを有効に活用することで着実なフォローアップを実施していく。